

平成23年度

福祉作文入賞者決定!!

福祉への理解と認識を深めていただくために「身近な福祉活動」をテーマにした作文を募集しましたところ、小学生から一般の方まで計445点の応募をいただきました。慎重な審査の結果、次のみなさんが入賞され、12月3日(土)に開催された「障がい者週間ともに考える市民のつどい」の席上で表彰されました。(各部門大賞・特選・入選の方のみ)

◆福祉作文(敬称略)

【小学生の部】

大賞 青山 奈美(塩屋小学校6年)
特選 佐伯 龍(原小学校5年)
入選 山本理紗子(塩屋小学校6年)
室井 康希(高雄小学校6年)

佳作

児島 慈和(赤穂小学校4年)
金家 弘明(城西小学校6年)
溝田 萌華(塩屋小学校6年)
隅田 長門(赤穂西小学校6年)
釣 翔貴(尾崎小学校6年)
武田 朝陽(御崎小学校6年)
山根 希(坂越小学校5年)
松井 優弥(高雄小学校6年)
寺内 真耶(有年小学校5年)
塚本 有紗(原小学校4年)

【中学生の部】

大賞 石中 遥夏(赤穂西中学校2年)
特選 上荷 涼一(赤穂西中学校2年)
入選 額田喜美子(赤穂東中学校2年)
古江 克成(赤穂東中学校3年)

佳作

濱崎 香帆(赤穂中学校2年)
桑原 涼菜(赤穂西中学校2年)
末岡未侑理(赤穂東中学校3年)
山根 彩加(坂越中学校1年)
久保 優作(有年中学校2年)

【高校生以上の部】

大賞 矢野 彩未(赤穂高等学校2年)
特選 神吉 裕次(赤穂高等学校1年)
入選 橋本 桜(赤穂高等学校2年)
明石 春夫(一般)
川崎 友里(赤穂高等学校2年)

応募者のみなさんには、厚くお礼申し上げます。
入賞作品は、福祉作文集の作成をして広く福祉活動の場で活用させていただきます。
福祉作文の大賞作品は、次のページのとおりです。

◆福祉作文(小学生の部)大賞◆

「共に生きるということ」

塩屋小学校6年 青山 奈美



福祉体験学習で班を作り、福祉施設を訪問しました。

訪問する前に、その施設について調べたり、施設で働いていた親せきの人に、どのようにふれあえばいいか、アドバイスしてもらったりしました。

また、学校でも、どのように交流したらいいか勉強しました。その中で、「ともに生きる」ということを考える勉強をしましたが、私には、こういうことなのかよく分かりませんでした。

そして、第一回目の交流の日。「うまく話せるだろうか。」と、不安な気持ちでいっぱいでしたが、教えてもらったように、優しい口調で話をじっくり聞いてあげることになり心がけました。おばあさんに、「好きな食べ物は何ですか。」と質問すると、

「食べられるだけで幸せなんだよ。好きな食べ物なんかないわ。」という答えが返ってきました。そして、何度も同じことをくり返して言いました。私はどうしていい

か分からず、だまっしてしまいました。教えてもらったこと、勉強したことがあまりいかせてなかったのかな、と反省しました。初めて会う人や、相手のことを考えて話すのは、とても難しいなと感じた一日となりました。

第二回目の交流は、お年よりの方を楽しませてあげたいという気持ちで行きました。歌やリコーダーを聞いてもらおうと思ひ、たくさん練習して行きました。すると、とても大きなはく手をもちることができました。それから、折り紙で折ったちようちよをプレゼントすると、とても喜んでくれました。

私の楽しませてあげたいという気持ちを通じて、私もとてもうれしい気持ちになりました。

第三回目の交流では、班で「自分達ができることを全力でがんばる。」という目標を立てました。そして、何をしたらお年よりの方が喜んでくれるのか、班で話し合い、一生けん命考えました。そして、何回も何回も練習したソーラン節と、組体そうを精一杯全力でして、見てもらいました。とても、とても大きなはく手をしてもらいました。

また、おばあさんとの会話では、話をじっくり、うなずきながら、一生けん命に聞きました。私が笑顔で一生けん命話を聞いていると、おばあさんからも笑顔が返ってき

ました。そして最後に、おばあさんから、「来てくれて、ありがとう。うれしかったよ。」

と、言ってもらえた時に、精一杯がんばって、本当に良かったなと心が温かくなりました。

私は、交流を通して感じたことがあります。それは、おばあさんとふれあう中で、こちらが相手のことを思いやり、かわると、相手にも伝わり、喜んでもらえ、私もうれしくなり、喜びを感じる事ができるということです。みんな、みんな、つながって生きていくんだ、支えあっているんだ、ということだと思ひます。障がいがあるいや、おばあさんと子どもという年れいのちがいに関係なく、いろんな人がつながって支えあって生きる。これが「ともに生きる」ということなんだと、実際に体験して感じる事ができました。

これからも、自分のできることをして、いろいろな人とつながり、ともに生きていこうと思ひます。

まずは、おばあさんの笑顔をもう一度見にまた、施設に行きたいと思ひます。

「おばあさん、待っていてね。」

なお、中学生の部・高校生以上の部の大賞作品については、次号に掲載させていただきます。